

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-207268

(P2017-207268A)

(43) 公開日 平成29年11月24日(2017.11.24)

(51) Int.Cl.		F I		テーマコード (参考)
F 4 1 J	3/00	(2006.01)	F 4 1 J	3/00
A 6 3 B	65/02	(2006.01)	A 6 3 B	65/02
				Z

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号	特願2016-110469 (P2016-110469)	(71) 出願人	516162364
(22) 出願日	平成28年5月16日 (2016. 5. 16)		太田 健一
			東京都八王子市西寺方町 1 0 0 1 - 1 6 8
		(72) 発明者	太田 健一
			東京都八王子市西寺方町 1 0 0 1 - 1 6 8

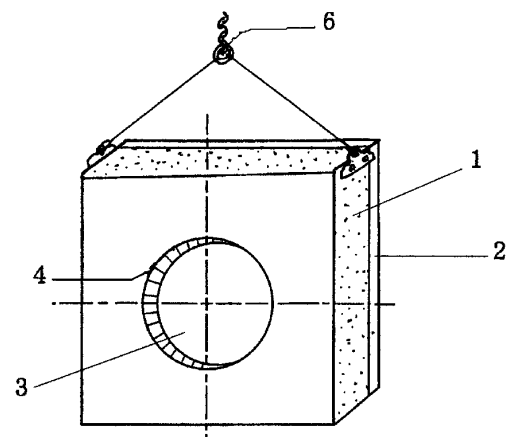
(54) 【発明の名称】 補修簡単な吹き矢の的台

(57) 【要約】

【課題】 吹き矢の的台の中心から一定の同心円範囲が特に刺突矢のために破損消耗崩壊が激しく、PUR材から出来ている的台は他の部分が無傷であっても交換しなければならない。高価な部材から造られる的台の交換費用は吹き矢を勤しむ個々人の負担となり、その普及の妨げにもなっていることが課題である。

【解決手段】 的台の中心から一定範囲(円)を削り抜いた凹部を柵壁役をなすPUR(発泡倍率の低い独立気泡型PUR)で平面延長高位地に囲み、そこへ油性粘土を充填して平面に均し、その上面に的紙を貼り付けると完成。粘土部の刺痕は簞若しくは指で擦ると補修でき、的台として半永久的に使用出来る。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

健康吹き矢、スポーツ吹き矢等の的台の多くは発泡プラスチック（以下 P U R とする）材を使用しているが、的紙を貼り付けるための的台そのものの中心部付近が特に消耗が激しいので、的台中心から一定範囲と深さに「油性粘土」を敷き詰めた補修簡単な粘土入りの的台を提供する。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、吹き矢の的台に関するものである。

10

【背景技術】

【0002】

吹き矢は趣味やスポーツとして一般社団法人、愛好者の会等の競技会、練習などに使用されているが、吹き矢の標的紙を標示するの的台は、P U R の軟性のものと硬質性のものを貼り合わせて作製されている。

【0003】

以下、図 1 ～図 3 により従来の的台について説明する。図 3 は吹き矢の的紙である。図 1 において P U R 材等が硬質性のもの（発泡倍率 2 倍以上 10 倍以下の P U R ）と貼り合わせ、軟性 P U R の上面に図 3 の的紙を貼りの的台として使用されている。しかし同素材は矢の刺突に対して破損消耗が早く数百本で交換を余儀なくされることが課題である。

20

【0004】

図 1 の的台をそのまま 6 吊し冠鎖で吊すか固定脚に設置して使用する。

【先行技術文献】

【特許文献】

【特許文献 1】 不明

【特許文献 2】

【非特許文献】

【0005】

【非特許文献 1】 なし

【非特許文献 2】

30

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

吹き矢の的台に適合する P U R 材料は、上記の通り矢の刺突による破損消耗が激しいため頻繁な交換を余儀なくされ、経済的な負担も伴う。P U R 材と言えども鏝が金属等この発泡材の硬度を超えるものでなければ「跳ね矢」となり刺着しない。そのため金属製鏝の矢を使用する団体が存在している現況は関連課題でもある。そして気軽な趣味、スポーツとして「武器」には該当しない「安全な吹き矢」を実現するのが本来課題である。

【0007】

的台材 P U R が矢の刺突に対して破損消耗が早く数百本で全体交換を余儀なくされることの解決と、安全な矢の開発にもつながる的台の発明を課題とする。

40

【課題が解決するための手段】

【0008】

本方式では中心から一定の同心円範囲に P U R を切り抜き、そこへ油性粘土を充填して平面に均してラップを張りその上に的紙を貼り付ける。

鏝の硬さ：粘土 < 鏝 < 金属等（従来は鏝の硬さ：P U R < 鏝 = 金属等）

【発明の効果】

【0009】

消耗破損が激しい同心円範囲内に突刺した矢痕は、簞か指で簡単に補修できるので、的台の頻繁な交換が無用になる。鏝も金属材料使用から解放されてより安全な吹き矢の開発実

50

現が容易となる。

【0010】

油性粘土を詰めることによって、鏝に殺傷能力の疑念を抱かせる金属等硬質材を使用廃止し、より安全性の高い矢の開発触発にもつながる。

【図面の簡単な説明】

【00011】

【図1】この発明を実施するための形態を示す全体図である。

【図2】この発明を実施するための形態を示す断面図である。

【図3】この発明を実施するための形態を示す参考的紙図である。

【発明を実施するための形態】

10

【実施例】

【0012】

この発明の一実施形態を図1～図3に示す。

【0013】

図1においては的台の本体は1PURと2独立気泡型PUR材を貼り合わせたものとなっている。

【0014】

図1の中心から一定の同心円範囲にPURを切り抜き、そこへ油性粘土を充填して平面に均してラップを張りその上に的紙を貼り付ける。

【0015】

20

図2の4はソリッド薄材を、切り抜いた台円周に柵壁役にして粘土のはみ出しと外れを防止するためのものである。中心から一定範囲（直径概ね15cmの円形）を削り抜いた跡に柵壁役をなすPURソリッドで平面延長位に囲み、そこへ油性粘土を充填して平面に均し、その上面に的紙を貼り付けると完成。

【0016】

一定の厚さで油性粘土を敷き詰めその上にラップを貼り付けることにより的紙に粘土の油分が浸透するのを防ぐ。

【産業上の利用可能性】

【0017】

高齢化社会が進むこんにち、吹き矢の効果は様々な角度から論述されかつ証明され評価を受けているところである。そしてその対象も高齢者ばかりではなく年少者、中壮年層等全ての人々の心身の安定を促し、ストレスを解消して病気に強い身体にしてくれる吹き矢式呼吸法が見直されるようになった。

30

心身の乱れから生ずる病い、事故、犯罪の発生にまで及んでいるとさえいわれているこの社会状況には行政をはじめ各界上げてあらゆる手段画策が思案試行されているが未だ状況は治まらない。その僅か一端ではあるが健康吹き矢、スポーツ吹き矢等の業界ではそれぞれの方法によって普及を図っており多くは25000名超の会員を容れ日本全国では今や愛好者10万人以上でさらに増加していると言われている。しかしながら用具や素材についてはそれぞれの推進団体によって異なり試行錯誤の領域が多く統一されていない現状でもある。特に的台については素材の選定に止まり、PURと粘土等との組み合わせによる部分破損防止の方法はとられていなかった。本件は主要な吹き矢の用具である的台を半永久的に使用出来る構造にして提供するものであって関係産業の利用可能性は大である。

40

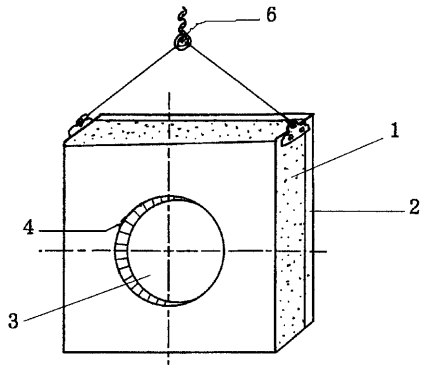
【符号の説明】

【0018】

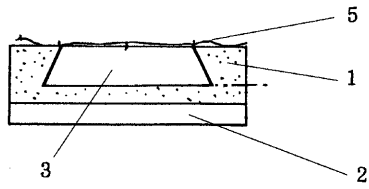
- 1 的台の本体表：発泡倍率の高い（発泡倍率10倍以上）連続気泡型のPUR
- 2 的台の本体裏：発泡倍率の低い（発泡倍率10倍未満～2倍以上）独立気泡型のPUR
- 3 油性粘土（原材料名：流動パラフィン、シリカ、金属石鹸、無機顔料）
- 4 発泡倍率の低い（発泡倍率2倍程度）連続気泡型のPUR
- 5 ラップ（ソリッド：超薄型非発泡PP）
- 6 吊し冠鎖

50

【図 1】



【図 2】



【図 3】

